

「未来の教育」を 見据えた 校舎のあり方を考える

福本 みちよ

（東京学芸大学大学院教育学研究科・教授）





自己紹介 福本 みちよ

東京学芸大学大学院教育学研究科(教職大学院)教育実践専門職
高度化専攻(学校組織マネジメントプログラム)

教授／博士(教育学)

○ 専門分野:教育経営学

○ 主な研究テーマ:

ニュージーランドの自律的学校経営システム

自律的学校経営を支える学校支援

学校評価を生かした学校づくり

スクールリーダー養成

○ 学校管理職としての実務経験:

2020年4月-2022年3月 東京学芸大学附属中学校校長



本発表の流れ

1. はじめに

- 前提となる社会の変化

- これからの学校教育の姿を考えるための観点

2. これまでの「未来の教育」をめぐる論点

3. 近年の教育政策の焦点

4. 「未来の教育」を見据えた校舎のあり方を考える

1.はじめに

これからの学校教育を
どのような観点から考えるか



前提となる社会の変化

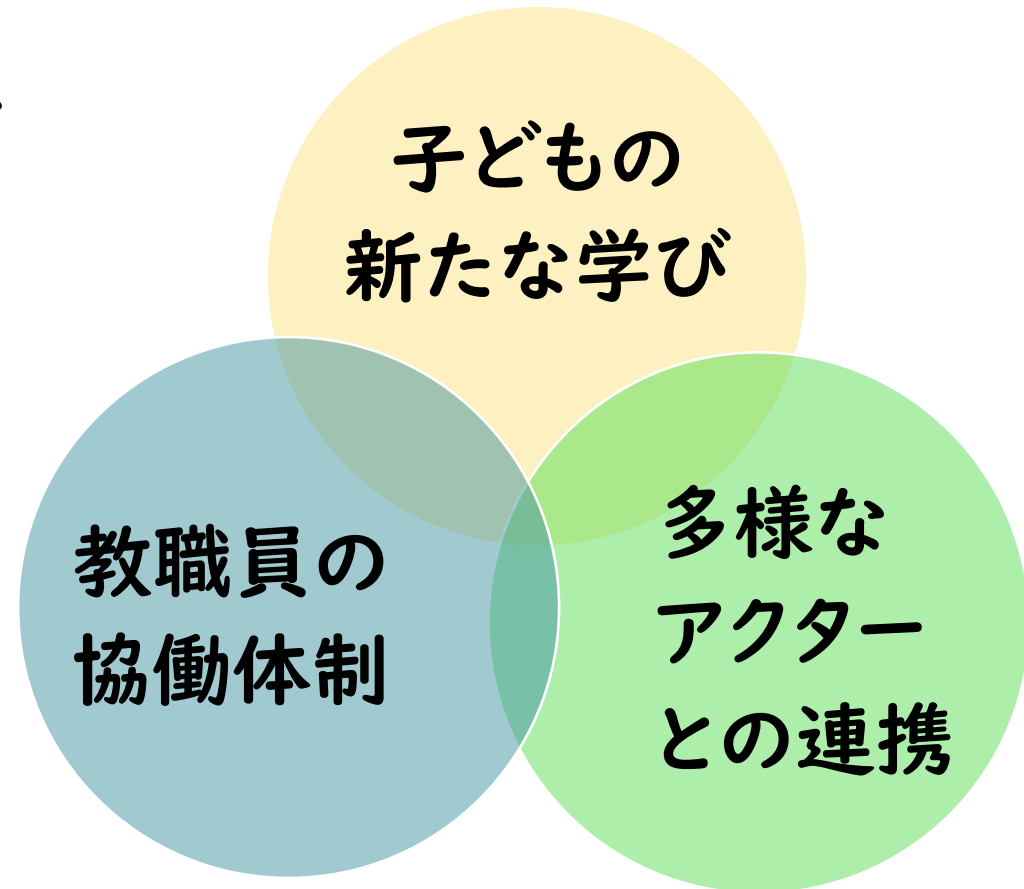
■ 社会全体を通して

- 見通しが持てない・予測不可能な社会
「VUCA」（不安定、不確実、複雑、曖昧）が急速に進展する世界／国際情勢の不安定化／気候変動
- DXの進展（AI・ロボットとの共生）
- 共生社会（社会的包摂）
- 精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）

これからの学校教育の姿を考えるための観点

<検討の3観点>

社会の変化を前提としたとき、
学校教育に何が求められる
のか。そのためにどのような
条件整備が必要か。



2.これまでの「未来の教育」をめぐる論点

これまで“未来の教育”を
どのようにとらえ、描いてきたのか



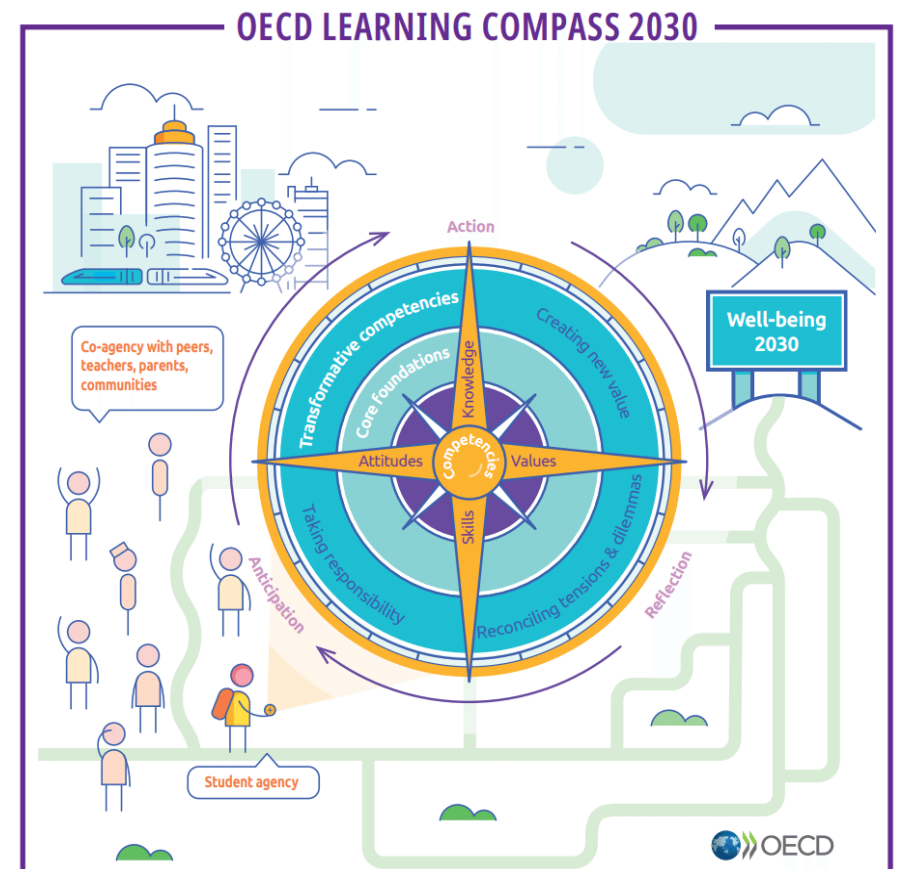
2015年 教育とスキルの未来2030プロジェクト（OECD）

【概要】2030年に子供たちに求められるコンピテンシー（資質・能力）を検討するとともに、そのようなコンピテンシーの育成につながるカリキュラムや指導方法、学習評価などについて検討

OECD 学びの羅針盤2030(ラーニング・コンパス)

より良い未来の創造に向けた変革を起こす
コンピテンシー

- ・ 新たな価値を創造する力
- ・ 対立やジレンマに対処する力
- ・ 責任ある行動をとる力



2016年 2030年の社会と子供たちの未来(中央教育審議会)

中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(答申)
(2016年12月)第2章

<2030年の社会の姿>

- ・変化の早さが加速度的となり、社会の変化が人間の予測を超えて進展する。
- ・進化したAIが様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする時代の到来が、社会や生活を大きく変えていく。

<求められる資質能力>

- ・「変化を前向きに受け止める」「人間ならではの感性を働かせて社会や人生を豊かなものにしていける」「新しい未来の姿を構想し実現したりしていける」資質能力

<資質・能力の3つの柱>

- ①生きて働く「知識・技能」、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」、③「学びに向かう力・人間性」

= 変化の激しい社会を生きるために必要な力(「生きる力」)

2022年 未来人材ビジョン(経済産業省)

次の社会を形づくる若い世代に求められる能力・姿勢

- 「常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力」
- 「夢中を手放さず一つのことを掘り下げていく姿勢」
- 「グローバルな社会課題を解決する意欲」
- 「多様性を受容し他者と協働する能力」

「意識・行動面を含めた仕事に必要な能力等」の時代変化

2015年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14
責任感・まじめさ	1.13
信頼感・誠実さ	1.12
基本機能（読み、書き、計算、等）	1.11
スピード	1.10
柔軟性	1.10
社会常識・マナー	1.10
粘り強さ	1.09
基盤スキル※	1.09
意欲積極性	1.09
⋮	⋮

※基盤スキル：広く様々なことを、正確に、早くできるスキル

2050年	
問題発見力	1.52
的確な予測	1.25
革新性※	1.19
的確な決定	1.12
情報収集	1.11
客観視	1.11
コンピュータスキル	1.09
言語スキル：口頭	1.08
科学・技術	1.07
柔軟性	1.07
⋮	⋮

※革新性：新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

一律・一斉で画一的な知識を詰め込めば対処できる時代は終わり、
今は「**目指す社会に向けて何を実現すべきか**」という**到達地点を考える**時代。

2023年 第4期教育振興基本計画（文部科学省）

※教育振興基本計画：教育基本法に基づき政府が策定する、教育政策全体の方向性や目標、施策などを定めた5年ごとの総合計画。

<2つのコンセプト>

持続可能な社会の 創り手の育成

- 将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てる
- 主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定・解決能力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

日本社会に根差した ウェルビーイングの向上

- 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングを向上
- 幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現等を調和的・一体的に育む

<5つの基本的な方針>

- 1 グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- 2 誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- 3 地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- 4 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- 5 計画の実効性確保のための基盤整備・対話

2025年 2040年を見据えた教育改革（日本経済団体連合会）

全体の能力強化に向けて

- 一人ひとりの個を磨く、多様な個性と好奇心、探究心を伸ばす教育
- AI・デジタルを駆使する人材の育成（モノづくり×デジタル等）
- 新たな労働需要に対応した不断の能力開発・スキルアップ
- 多様な人々と協働しながらイノベーションを通じた新たな価値創造に取り組み、国際連携をリードするグローバル人材の育成

⇒ **多様性・好奇心・探究力を中心に子を磨き育む初等中等教育への転換**

- 個々の興味・関心、学習進度を踏まえた個別最適な学びを提供、探究的な学びの好事例・成果を可視化（ITツールの活用、EBPM評価・改善）
- 教員が教育指導に集中できる環境を整備、学校現場の人材の多様化
- 入試では、基礎学力に加えて好奇心や探究力を総合的に評価
- 専門高校等における産業人材の育成と魅力向上を推進

社会で課題を見つけ、解決策を導き出し新たな価値を創造する人材の育成

3.近年の教育政策の焦点



近年の教育政策の焦点（観点Ⅰ：子どもの新たな学び）

中央教育審議会（2021）『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』（答申）

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

【指導の個別化】

基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、

- ・支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現
- ・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

【学習の個性化】

基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する

【協働的な学び】

「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する

それぞれの学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

近年の教育政策の焦点（観点2:教職員の協働体制）

中央教育審議会（2024）『「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について』（答申）他

学校における働き方改革／教師の処遇改善の在り方／学校の指導・運営体制の充実の在り方

- ICT活用の必要性（校務DXの加速）
- 教職員定数の改善と配置の再検討
- 若手教員への支援強化
- 学校内外の連携機能を強化するための「新たな職」の創設
- 支援スタッフの拡充
- 社会人の学校への参入などによる、多様な専門性を有する教職員集団の形成

近年の教育政策の焦点（観点3:多様なアクターとの連携）

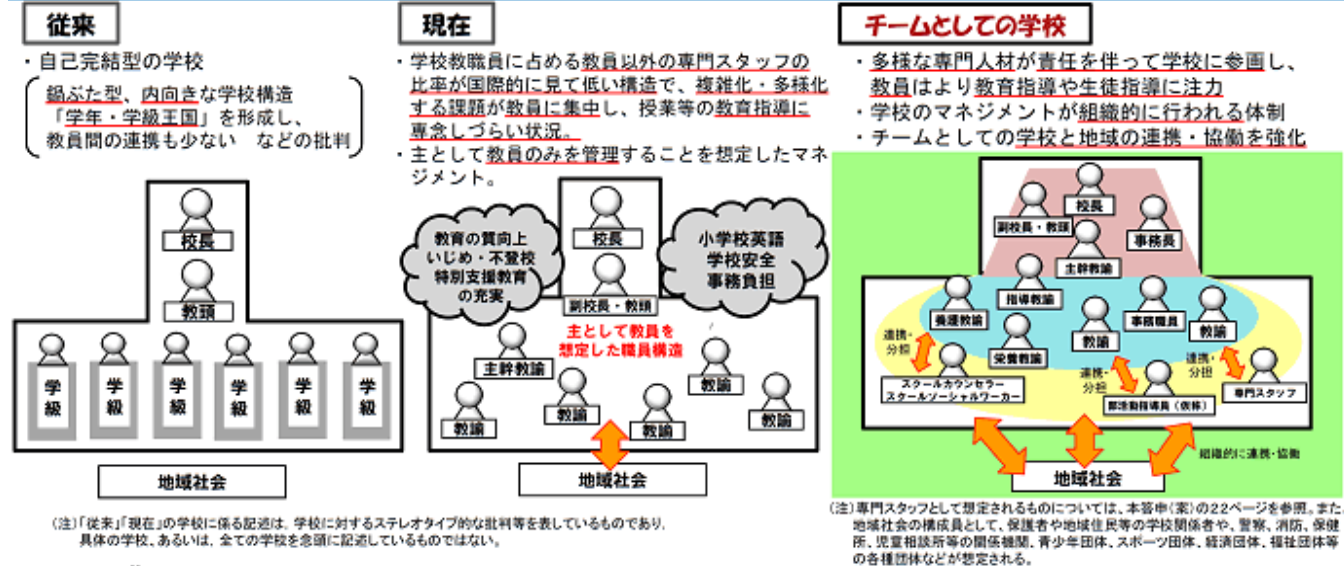
中央教育審議会（2015）『チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について』（答申）

チームとしての学校

《「チームとしての学校」像》

校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、**それぞれの専門性**を生かして能力を発揮し、子供たちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校

「チームとしての学校」像（イメージ図）



授業	・教員による一方的な授業への偏重	・変化する社会の中で、新しい時代に必要な資質・能力を身に付ける必要	・アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善
教員の業務	・学習指導、生徒指導等が中心	・学習指導、生徒指導等に加え、複雑化・多様化する課題が教員に集中し、授業等の教育指導に専念しづらい状況。	・専門スタッフ等との協働により複雑化・多様化する課題に対応しつつ、教員は教育指導により専念
学校組織運営体制	・縦割型の教職員構造 ・担任が「学年・学級王国」を形成	・主幹教諭の導入等の工夫 ・学校教職員に占める教員以外の専門スタッフの比率が国際的に見て低い構造	・カリキュラム・マネジメントを推進 ・多様な専門スタッフが責任を持って学校組織に参画して校務を運営
管理職像	・教員の延長線上としての校長	・主として教員のみを管理することを想定したマネジメント	・多様な専門スタッフを含めた学校組織全体を効果的に運営するためのマネジメントが必要
地域との連携	・地域に対して閉鎖的な学校	・地域に開かれた学校の推進	・コミュニティ・スクールの仕組みを活用 ・チームとしての学校と地域の連携体制を整備

4. 「未来の教育」を見据えた校舎のあり方を考える



子どもたちにどのような力を身に付けるさせることが必要か

【前提条件】「予測不可能な社会」を生きる力

- 新たな価値を見出し、自分で「未来」切り拓く力
- 新たなツールを効果的に活用する力
- 多様なものと共生する力
- 人間ならではの感性を大切に育む

そのためには、どのような学びが必要か

- × 一律・一斉・画一的な知識積み込み型の教育
- × 大人が既定路線を準備し、踏み外さないように支援することを重視する
- 多様性を受け入れ、好奇心・探究心を最大限に伸ばす
- 社会の中から課題を見つけ、解決策を導き出す

こうした力を修得していくためには、これまでの学習環境に対する発想自体を変えなければならない

子どもの
新たな学び

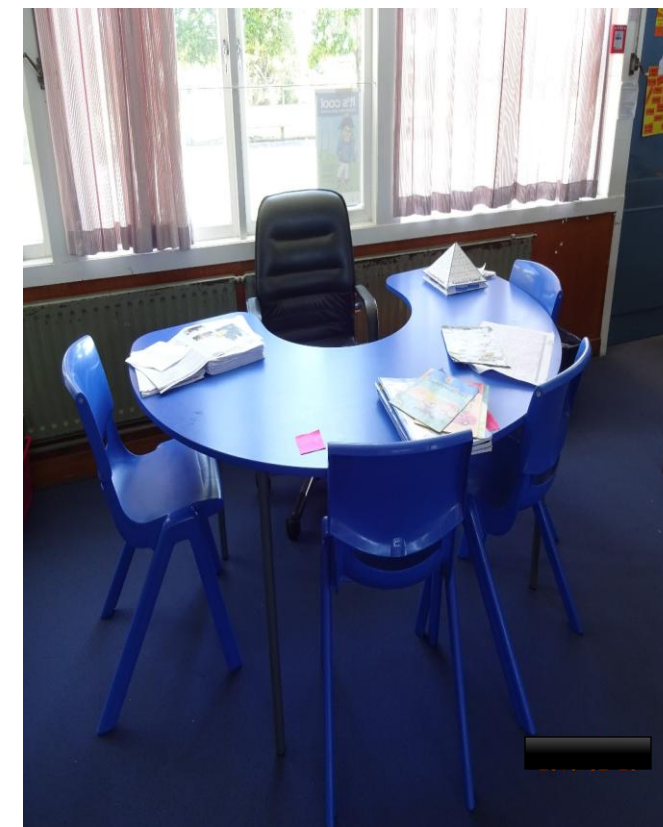
教職員の
協働体制

多様な
アクターと
の連携

そのためには、どのような教育環境が必要か

<子どもの新たな学び>を生み出すための学習環境

- 一斉授業向けの教室から、個に応じた学習活動を生み出しやすい教室へ
- 多様な好奇心を妨げずに、多種多様な学習教材へ容易にアクセスできる
- 学習の場は教室だけではない
- 協働的な学びが行いやすいスペースの確保
- 自然との共存（を感じられる環境づくり）



子どもの
新たな学び

教職員の
協働体制

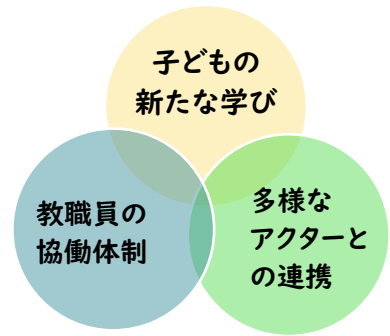
多様な
アクターと
の連携

そのためには、どのような教育環境が必要か

＜教職員の協働体制＞を生み出すための労働環境

- 個業型組織から協働型組織への転換を可能にする場（スペース）づくり
- 風通しの良い職員室づくり





そのためには、どのような教育環境が必要か

＜多様なアクターとの連携＞を生み出すための教育環境

- 「チーム学校」を、理念上だけではなく、実質的に機能させるための環境づくり
- 学校の教育活動に対する促進的要因になり得るもの（アクター）は、学校の外部にもたくさんある。そうしたプラスの要因を生かせる建築的構造
- 教育的観点+建築的観点からの「開かれた学校」づくり
- 50年後を見据えた時の「地域の核としての学校」づくり

ご清聴ありがとうございました

